



Vol.4

発行 2005年8月
動物愛護ボランティア
《ねこの会》

事務局：TEL/FAX 0263-36-2192

地域猫からコムキャットへ 岡田 英二

前回、地域猫の増減について掲載しましたが、数の推移以外にも色々な事が分かり、これまで漠然と推測だけで語られてきた外猫のエイズについても実体が見えてきました。エイズはFIVウイルスが病原体で感染力が弱く、感染から発病までの期間が非常に長く、発病したら絶対に治らないが急性症状は低い病気です。今まで野外で生活している猫がどんな病気を持っているかは、獣医師に掛かった患猫から推測するに過ぎず、外猫の50~70%はエイズだと云うのです。ある団体の愛玩動物インストラクターは90%の野良猫が感染していると公言していました。しかし、これは明らかな誤りです。実際に地域猫活動に入ってから2年の時点で111匹の調査によるFIV陽性の猫は10頭(♂8♀2)で、わずか9%でした。これは動物病院に来院した家庭で飼われている健康な猫のFIV陽性率9.3%とほぼ同じです(日獣会誌55,89-93,2002)。他にも猫白血病ウイルスも同じ陽性率でした。

何故この様な間違った認識が通るのでしょうか？野良猫はその重篤な姿を哀れんで動物病院に持ち込まれるのがほとんどです。診察時は発病しており健康な状態ではありません。従って集まるデータは不健康な猫の情報のみです。また、死猫の調査をしないため発病-死亡期間の短い病気は上らず、必然的に長い期間病気を患っているエイズが主に集計されます。これら数値が外猫全体の母集団とされるため比率が高くなるのです。地域猫活動が4年目を迎えた現在、6~7%に外猫のエイズ率は下がってきています。その理由は、子猫を生後半年から1年で避妊去勢手術するため外猫のエイズ比率が最も高い年齢の2~3歳時点では性格が温厚で喧嘩が少ないため病気が移らなくなっています。地域猫活動は猫の数を減らすだけでなく、間違った常識を正しい認識に変えて地域の人達へ伝える機会にもなっています。

地域猫事業は多くの有益な情報や結果をもたらしている活動ですが、その意味が分かりにくいことが残念です。一般に野良猫を介して起こる様々な問題を、地域の問題として位置づけ認識し、地域ぐるみで理解しながら解決を図り、人と猫が共生することを地域猫活動と呼び、住民と上手に共生している猫たちを地域猫と呼んでいます。地域猫と呼んでもピンと来ないので、耳に聞こえの良いコムキャット(Com.cat)と名付けました。これは地域猫の英訳がコミュニティーキャットであり、この活動へ支援しているのがコモンズ事業の一環で、その両方の頭文字コム(Com)を取ってコムキャットです。意外に語呂がいいと受けていますが、私たちが管理する地域猫は他県にはない長野県独自のスタイルが確立されました。ボランティアが猫の捕獲・運搬を行い、県動物愛護センターで避妊・去勢手術を行うのが主な内容で、ボランティアと行政が連携し、机上だけでなく作業も通して事業に取り組んでいます。長野県から発信する新しい地域猫という願いを込めて、皆さんもコムキャットと呼んで下さい!!

ねこの会は県動物愛護センターと4年間に渡り地域猫活動を通して一緒に仕事を続けており、長野県動物愛護会松塩筑支部を介してねこ部会としても活躍の場を拡げています。お陰様で知ることもなかった猫の野外の生態や状況をつぶさに観察できました。また、科学的、医学的にも調査を続けられ、推測に過ぎなかった事柄が事実として捉えられたことも大きな収穫です。人と動物が共生していくカギは正しい知識と正確な実情を得ることにあり、それをどのように捉え、どのように対処していくか適切な判断と行動が大事であることを実感しました。しっかりした構想と行動力があれば、行政も支援してくれます。地域猫もコムキャットに昇格し、継続的な協力が得られる機会も芽生えました。今後も会員の皆さんは各々、自分自身できちんと判断し行動が執れるよう頑張ってください!